

障害児等支援における学校と放課後等デイサービス事業所による連携した取組に関する実態調査

研究目的：障害児等支援における学校と放課後等デイサービス事業所（放デイ）の連携の実態について調査を通して、明らかにすること

西九州大学健康福祉学部
講師 土井幸治

研究成果：文献調査から、連携の必要性は認められており、学校と放デイにおける連携が確認された。主な連携内容としては、送迎時や対面での情報共有が行われている。しかし、支援計画を活用した連携に至っている報告は少なかった。連携の困難な理由について、一部の研究では、時間的制約などが指摘されている。一方、モデル事業として組織的な取組も確認され、個に依存しない組織的な取組の必要性が見出された。

1. 放デイの意義

- ・放課後等の活動の保障
仲間づくり
体験
- ・発達の保障
- ・保護者支援
- ・地域づくり 等

2. 放デイにおける取組

- ・2012年に法制化
- ・事業所数は年々増加
- ・自立支援、創作活動、地域交流、余暇活動
- ・専門職の配置

→効果的な取組が認められる一方、全国的に取組内容に偏り、県内では設置個所に偏りがみられる。

3. 学校と連携した取組の実態

- ・連携の必要性が認められている
- ・特別支援学校と放デイとの連携は多い
- ・送迎、電話、連絡帳、交流、会議等

→利用に関わる情報の伝達は行われているが、ケース会議の開催や特に支援計画書を共有した連携は限定的。

4. 県内における放デイの取組

県内の放デイへのインタビュー調査を計画しております。

当日のコンベンションでは、経過を報告したいと思います。

